

CELLISSIMO

<http://kobe-cello.com>

NPO国際チェロアンサンブル協会 第7回定時総会のご報告

NPO国際チェロアンサンブル協会第7回定時総会は左記の内容で開催されましたのでご報告します。

日時：2007年3月4日（日）

11:30～13:00

場所：NPO国際チェロアンサンブル協会事務局

出席者：会員数236名のうち142名

（うち委任状135名にて成立

参加者：松本巧、白沢史子、（以下あい

うえお順）小林修、鈴木孝道、

田原光子、永山恭子、山本康雄

討議内容

A. 報告事項

① チェロアンサンブル作曲コンクールの無期限延期について

② The International Cello Ensemble Competitionの無期限延期について

「兵庫県井戸知事より1000人チェロ

への協力の申し出を受け、昨年総会にて

チェロアンサンブルコンクールを開催する

方向で合意したが、2006年4月に知

事に面談を行なったところ、コンクールに

ついての指示、支援に対する積極的な意

向を示していただけなかった。したがっ

て、イベントは無期限に延期としたい」

と理事長より報告あり。

③ 高円宮様追悼コンサートの

見直しについて

「昨年総会にて、1000人チェロ10周年に合わせて、2008年東京にて高円宮様追悼コンサートの開催を目指すことと合意していたが、昨秋に広島原爆記念公園での開催はどうかとの提言（会報誌第8号参照）を受け、上記コンサートは見直したい」と理事長より報告あり。

B. 審議・承認事項

① 平成18年度事業報告と決算の承認

・次ページ資料1のとおり報告がなされ承認された。

② 平成19年度事業計画と予算案の承認

・次ページ資料2のとおり報告がなされ承認された。

③ イクシオン・トリオ主催公演実施

について

・公演（下記に紹介）実施にあたり、一番の難題は集客であるが、ぜひ会員の方々はご家族、友人への積極的な声かけなどご協力いただき、1枚でも多くのチケットを買っていただきたい。

・マリア・クリーゲルさんは1000人チェロコンサート、チェロコングレスへも参加いただき、実力も周知されているし、会員も神戸での親睦会などで親しみを持つ人も多いため、協力いただけるのではないかと。

・会員へはマリア・クリーゲルさんとの打ち上げ、公開レッスンの特典を設けるなど、考えたら良いのではないかと。



マリア・クリーゲルさんが
こんどはピアノトリオで
演奏会を開きます。

イクシオン・トリオ演奏会

2007年9月17日（月・祝）開演14:00 主催兵庫県
兵庫県立芸術文化センター 小ホール A4,000円 B3,000円（全席指定）
2007年9月20日（木）開演未定 主催:NPO
日本大学カザルスホール（東京）入場料:未定
2007年9月21日（金）開演未定 主催:NPO
電気文化会館ザ・コンサートホール（名古屋）入場料:未定
2007年9月22日（土）開演未定 主催:NPO
コンパル文化ホール（大分市）入場料未定
シューベルト：三重奏曲「ノットウルノ」変ホ長調、ベートーヴェン：
ピアノ三重奏曲第7番 変ロ長調「大公」、ドヴォルザーク：ピアノ三重
奏曲第4番 ホ短調「ドゥムキー」
世界的に活躍するチェリスト、マリア・クリーゲルが中心となって結成されたイク
シオン・トリオ。ピアノのニーナ・ティッチマンと、ヴァイオリンのアイーダ・ピ
ーラーとともに、19世紀に生きたシューベルトとベートーヴェン、そして時代を
あけてドヴォルザークの三重奏曲を奏でます。3人の見事なハーモニーに驚く出
会の瞬間をお楽しみください。



イクシオン・トリオ公式サイトはこちらです。
<http://www.xytrio.com/>





中越地震復興支援チャリティーコンサートには
100人のチェリストが参加した。(10月9日小千谷市東山小学校にて)

棚卸品:「自然な奏法」611冊×1500円
前払費用:名古屋「ザ・コンサートホール」使用申込金
仮受金:理事長個人からの仮受金
預り金:中越懇親会費(未払)
借受金:兵庫県福祉協議会

平成18年度特定非営利活動に係わる事業 貸借対照表

平成18年12月31日現在
特定非営利活動法人 国際チェロアンサンブル協会

科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
①資産の部		②負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金	2,492	仮受金	18,159,754
NPO普通預金	67,240	預り金	240,000
NPO郵便貯金	18,127	未払費用 (会報誌)	120,750
棚卸品	919,500	借入金	149,971
未収入金 (広告収入)	94,500		
前払費用 (会場費)	55,500		
流動資産合計	1,157,359	流動負債合計	18,670,475
2.固定資産		③正味財産の部	
什器備品	17,364	前期繰越正味財産	(17,738,394)
		当期剰余金	242,642
固定資産合計	17,364	正味財産合計	(17,495,752)
資産合計	1,174,723	負債・正味財産合計	1,174,723

- ・トリオでの演奏であり、チェロだけでなくヴァイオリンやピアノも含まれているので、この機会に今後は他の楽器の会員などにも広めたいのではないか。
- ④約款変更と理事定数の変更
 - ・現在理事12人、監事2人を理事5人以上15人以内、監事1人または2人とし、理事定数に幅をもたせ、柔軟な体制にすることで満場一致で異議なく可決した。
- C・協議事項
 - ①ICESの運営について
 - 1.繰越損の処理
 - 2.会員拡大
 - ・定期的な会報誌発行と年会費のお知らせにより会員の定着を図れるよう、今後も引き続き事務処理を充実させていき、会報誌は大きなイベントがない年度については、定期発行が難しいので各地区持ち回りにしてはどうか。今後、会報誌担当者から依頼があったら会員の方々にもぜひ投稿などの協力をお願いしたい。
 - ・各地域でのアンサンブルや当協会主催のイベントなどにも積極的参加を願ひし、会員としての意識を盛り立てられるようにしたらどうか。その援助として、メンバーの紹介・楽譜の貸し出しなどを充実させてはどうか。
 - ・総会への参加と意識拡大のため、総会後にチェロアンサンブルなどを楽しめるような企画をしたらよいのではないか。
- ②第4回1000人チェロコンサートについて
 - ・前記A③の合意事項として、広島でのコンサートを開催する方向で会場県との調整を進めていきたい。

平成19年度事業別収支予算

平成19年1月1日～
平成19年12月31日まで

収入	合計	本会計	エッセン.クレモナ	イグォン公演	書籍
入会金収入	30,000	30,000			
年会費収入	750,000	750,000			
参加登録収入	50,000		50,000		
チケット収入	4,300,000			4,300,000	
公演収入	1,150,000			1,150,000	
広告料収入	160,000	60,000		100,000	
書籍収入	15,000				15,000
寄付金	250,000	50,000		200,000	
受取利息	0	0			
雑収入	0	0			
合計	6,705,000	890,000	50,000	5,750,000	15,000

支出	合計	本会計	エッセン.クレモナ	イグォン公演	書籍
仕入	9,000				9,000
出演報酬	2,972,000			2,972,000	
会場費	900,000			900,000	
会報費	210,000	210,000			
郵送料	185,000	180,000	5,000		
チケット代金	0	0			
消耗品費	40,000	40,000			
旅費交通費	1,500,000	30,000		1,470,000	
印刷費	405,000	100,000	5,000	300,000	
運送費	40,000	40,000			
通信費	58,000	48,000	10,000		
交際費	30,000	30,000			
公租公課	1,500	1,500			
著作権料	20,000	20,000			
翻訳料	20,000	10,000	10,000		
支払手数料	6,000	6,000			
寄付金支出	0	0			
支払利息	1,500	1,500			
合計	6,398,000	717,000	30,000	5,642,000	9,000
差引収支	307,000	173,000	20,000	108,000	6,000

単位 円

平成18年度事業別収支決算

平成18年1月1日～
平成18年12月31日まで

収入	合計	本会計	中越復興	書籍
入会金収入	30,000	30,000		
年会費収入	726,000	726,000		
参加登録収入	249,000		249,000	
チケット収入	28,720	28,720		
広告料収入	94,500	94,500		
書籍収入	7,500			7,500
寄付金	631,349	443,100	188,249	
受取利息	42	42		
雑収入	73,700	19,700	54,000	
合計	1,840,811	1,342,062	491,249	7,500

支出	合計	本会計	中越復興	書籍
仕入	4,500			4,500
会報費	246,750	246,750		
郵送料	353,010	220,390	132,620	
チケット代金	70,600	70,600		
消耗品費	119,162	88,701	30,461	
旅費交通費	51,490	3,000	48,490	
印刷費	187,425	179,550	7,875	
運送費	65,927	65,927		
通信費	35,410	35,410		
交際費	82,975	81,275	1,700	
公租公課	1,500	1,500		
著作権料	148,837	148,837		
翻訳料	24,600	24,600		
支払手数料	7,940	7,940		
寄付金支出	188,249		188,249	
支払利息	9,794	9,794		
合計	1,598,169	1,184,274	30,000	4,500
差引収支	242,642	157,788	20,000	3,000

単位 円

プーチン大統領主催 クレムリンでのロストロポーヴィチ氏 80歳誕生日祝いパーティに招かれて

2005年5月の神戸にて (右は分券中)

パーティ唯一の写真、ショスタコヴィチ氏の息子と

スラヴァからの手紙

2006年8月に突然ロストロポーヴィチ氏(スラヴァ)から書状が届きました。同氏とはこの8年間のお付き合いはすべてファックス、時に電話でのやり取りでしたから、一体なにごとかと思えました。

2007年3月27日にプーチン大統領主催で自分の80歳の誕生日パーティをモスクワのクレムリンで開催するので、ぜひ松本さんにも出席願いたい。そして前日の26日にはコンサートでモスクワ・コンセルバトワールで開催するのでそれにも「招待したい」こんな内容でした。大変な驚きと同時に、いったいどんな方々がお見えになるのだろうか?と思いました。

と言いますのは、スラヴァは私に「天皇陛下には今でも日本に行くと言居てチェロを教えている。イギリスのチャールズ皇太子にチェロを始めさせたのは私だ」と言っていました。さらに、エリザベス女王やオランダのマーガレット女王をはじめとする世界の国王、王女、大統領との親交を述べていましたから。

招待客の顔ぶれ

用意していただいたホテルは赤の広場(クレムリン)のすぐ近くでマルクス像のある革命広場の真ん前のMetropole Hotelでした。日本の旅行書にはトップで紹介されているモスクワではもともと歴史と風格のある五つ星ホテルです。小澤征爾氏もご子息・令嬢とともに同じ日に到着されていたようです。

チェコインと同時にスラヴァの秘書の方に病状をお聞きしますが、「27日には間違いなく出席します」と言うだけで、明快な返事をしていただけませんでした。

26日にはスラヴァのご手配で、お呼びした私を含めた友人たちをクレムリン観光に英語のガイドで案内してくださいました。小澤さんはお祝いプレゼントとして連れてこられたキャラバンオケの練習のため不参加でした。全部で30名足らずの方々と、スイス・トーンハレ交響楽団の代表者、ニューヨークのマネージャー、ヨルダン、オーストリア、イギリスの音楽関係者な

どでした。当初の夜に予定されていた小澤さんが指揮をするスラヴァのコンサートはキャンセルされ、元スラヴァの弟子たちによるチャイコフスキーホールでのコンサートに「招待いただいた」きました。弟子たちと言いましても、ゲリンガス、グッドマンといった、やはり世界の巨匠クラス、グッドマンでもない音楽家たちによる手弁当で企画・演奏したものでした。冒頭は1800人のチェリストによるダビッドフの「イムヌ」でした。同曲には一昨年の第3回10000人のチェロでこんな裏話があるのです。

2005年5月の第3回10000人のチェロ・コンサートでトリの曲としてスラヴァ自身の指揮で演奏したものです。私とスラヴァで同コンサートの最後を何の曲で飾るかのバトルが曲順を決定する段階でありました。それは、ICESにすれば、書き下ろしで作曲していただいたシェドリン氏の「ハムレットバラード」をトリの曲にしたいと思っていました。ところがスラヴァはダビッドフがスラヴァの父の親友であったことに加えて、曲そのものの情緒から「イムヌ」をトリにすることを頑強に言いはりました。そんな「訳あり」のダビッドフの「イムヌ」で始まりました。

コンサートは実に3時間余りに及び、ゲリンガスがペンデレフスキーの現代曲、グッドマンがドヴォルザークの第二楽章など、それは素晴らしい、そして温かいコンサートの夕べでした。演奏者は全員がスラヴァの回復をお祈りしているような気持が溢れていました。

取り上げられたデジカメ

いよいよ27日です。当日の夕刻、ホテルに送迎バスが2台到着、18時過ぎにクレムリンに着きました。入口では軍服姿のセキュリティ関係者やスーツ姿のKGBがやたらに大勢いました。パスポートだけでなく、正式な招待状の提示まで求められました。そして、残念なことに入口で私のデジカメを取り上げられてしまったのです。ここまでやるかと怒りより驚きの方が勝りました。せつなくスラヴァ、プーチン大統領と一緒の写真を撮ろうと期待していたのがいつとんで吹っ飛んでしまいました。残念なことですがクレムリン内部での写真は皆様にはお届けできないことになりました。申し訳ありません。

2階の大きな控室のロビーに案内されました。約1時間のウェルカムドリンクの間にあちこちと知り合いがいなか探してみましたが、日本人の姿はほとんど見当たりません。26日のクレムリン観光で一緒になった方々とはしばし談笑

をしたりしているうちに、R.シェドリン氏をご夫人のポリシヨイバレエのプリマドンナとして日本にも大勢のファンがいるM.プリンスツカヤさんと一緒に来ておられるのを発見、しばしの間、第3回10000人のチェロのお話で盛り上がりました。招待客は全部で4000人ほどのようでした。

さて、館内放送で左右のエスカレーターでさらに3階へと案内されると、ガラス扉の向こう側で再びパスポートと招待状のチェックを軍服姿の衛兵から受けました。

ここから待ちに待ったパーティ会場です。階段を10段ほど上り始めるとオーケストラの響きが聴こえてきました。チャイコフスキーの「エフゲニー・オネーギン」でした。階段を上るごとに会場が目の前に広がってきます。10人掛けの丸テーブルが60ほど並ぶように。すべてのテーブルに中世宮廷服姿とパツハのような髪型のギャルソンが勢ぞろいして、全員階段から入ってくる私たちを直立不動で迎えるのでした。なんとも華やかで威厳のある、そして盛大と言ふ言葉が自然に出てくる宴卓風景でした。

私のテーブルは日本人の招待客で占められていました。駐モスクワ大使の斎藤ご夫妻、ロシアの子供たちを支援するためにロストロポーヴィチ氏が設立した財団の日本理事ご夫妻、ジャパンアーツの部長さん、そして小澤征爾氏ご一家の3名でした。

小澤氏はパーティ途中で日本からのキャラバンオケを指揮するためにご一家で舞台近くに移動されました。

テーブルにはチェロの絵と形と料理のメニューとパーティ音楽のプログラム、そしてスラヴァオリジナルのウォッカ60cc入り各人6本ずつおかれていました。

スラヴァの思い、私たちの思い

パーティ冒頭に主催者のプーチン大統領のご挨拶がありました。同大統領挨拶要旨

"In all your life and creative work you have many times shown the truth that art and morality together supplement each other and constitute a single goal. In all of the world you are known not only as a brilliant cellist and gifted conductor but as a confirmed defender of human rights and freedom of spirit and an uncompromising fighter for the ideals of democracy," Putin said.

スラヴァのチェリスト・指揮者としての偉大

さだけでなく、人権と民主主義擁護について偉大な功績を認めるものでした。

プーチン大統領はスラヴァに記念の大きな深紅の襷をスラヴァに掛け、続いてスラヴァが挨拶に立ちました。

彼は自分の家族、友人、音楽仲間そして列席の我々への感謝を簡単に述べただけでした。それは彼の病状がかなり深刻であることを列席者に印象付けることになりました。

何人かの要人の方々のご挨拶が料理の進行とともに終ると、プーチン大統領は席を立ちました。それまで待っていたかのように列席者の何人かが容態を心配してスラヴァのテーブルに集まり始めました。私も少し間をおいてご挨拶にテーブルまでまいると、シェドリン・プリンスツカヤご夫妻とゲリンガスも来ていました。愛娘のオルガとエレオナの二人が、弱っている父親を守るかのように両サイドに立って我々の「挨拶攻撃」から護っていたのが非常に印象に残りました。

料理がデザートに進んで、バースデイケーキの蠟燭消しもスラヴァは無理で、オルガが替わりに消していました。参宴者に一通りケーキが渡り終ると、スラヴァは用意された車椅子で宴会場を後にしました。

主催者のプーチン大統領と主賓のスラヴァがいなくなった宴会場は急になだの料理宴卓になつてしまひ、参宴者も次々にクレムリンを後にし始めました。

私もテーブル上の記念のメニューとプログラム、そしてオリジナルウォッカをポケットに入れ、クレムリン宴会場を後にしました。

ホテルへのバスの中でスラヴァの瘦せて弱りきったお姿とプーチン大統領からの祝福に氏が人権と民主主義に身を徹して闘ってこられたことを重ね合わせて思いを馳せられた時、スラヴァが本日のパーティの席でスラヴァ自身が生きた「神様」になったような錯覚にとらわれたのは私だけではなかったように思いました。

スラヴァには少なくともあと10年はこの各地で戦争が耐えない地球の平和にも大きな力となつて尽くしていただきたいと思います。氏のご回復を祈るばかりです。

No.0100001 松本 巧

参考：4月21日から東京を皮切りに全国でロストロポーヴィチ氏の80歳を記念した映画が上映されます。5年前にはエリツィン大統領主催のパーティに氏が招待されましたが、今回のプーチン大統領のそれも規模はさらに大きく、雲囲気は非常に似通ったものでした。

information board

掲 示 板

第3回「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」を開催

チェロアンサンブル・コンテストは、2002年に笠岡チェロフェスティバルの一環として開催されたことがきっかけとなって、2004年に第1回目の「in かさおか」が開催され、2006年第2回目が開催されました。第1回目までの2回は、いずれも神戸に本拠を置く「# & b」(写真)が優勝、昨年の第2回目は「チェロアミーチ」が優勝を飾っています。



その第3回目となる「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」が、今年も6月17日(日)に開催されます。前回同様、「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」実行委員会・「いしかさ市民音楽協会」と「NPO国際チェロアンサンブル協会」それぞれ地元のCATVである「笠岡放送(株)」が主催し、上位3団体を表彰します。

今回も前回同様、審査委員長に松下修也先生をお迎えし、さらに、コンテスト終了後のチェロアンサンブルサロンも計画しています。また、前回から主催に加わっている地元のCATVである「笠岡放送」によるテレビ放映も決定しています。

今回も、グループとしての参加までできないが個人的には参加したいという方々のために、個人での申し込みも受け付けるようにしています。その際、日本アマチュア演奏家協会(APA)への入会申し込み時のグレードの申告と同様に自己申告をお願いします。それを参考にしてそれぞれのレベルに合ったグループ分けをし、その臨時編成のグループでエントリーの後、前日に練習をして参加することになります(個人として参加を希望される方は、下記事務局までお問い合わせください)。

参加費は、1団体当たり5,000円と1人当たり3,000円(NPO会員は、半額の1,500円)の合計金額で、持ち時間、1団体当たり10~15分程度です。

会場は、笠岡市保健センター「ギャラクシーホール」(笠岡市十一番町)で、13:30開演、14:00開演の予定です。両団体によるリハーサル会場は、前日16日(土)の13:00~17:00までと、当日17日(日)の9:30~12:00まで、本番会場である「ギャラクシーホール」を確保しています。

コンテスト終了後は、当然、打ち上げを計画しています。前日の土曜日の夜も、有志による懇親会を計画しています。なお、「第3回チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」への出演申込の締め切りは、5月31日(木)必着です。

今後、1000チェロのない年には毎年開催する予定です。ご意見・ご要望をお寄せいただけますと、ぜひご参加ください。ご連絡・お問い合わせ・エントリー申込は、実行委員会事務局 中村幸太郎まで。

E-mail kohtaro@kcv.ne.jp tel.090-3746-8923

【参考】日本アマチュア演奏家協会(APA)への入会申し込み時の自己申告グレード

- ・ P (プロ) : 音大などを卒業した職業音楽家
- ・ A (優) : 相当規模のオーケストラで独奏した経験があるか、またはその実力のある方。および室内アンサンブルのリーダーとして相当の経験があるか、またはその実力のある方。
- ・ B (良) : 相当のレパートリーで若干の予備練習によって、アンサンブルの主要メンバーとなり得る方。
- ・ C (可) : 合奏を愛好し、ある程度の個人練習(事前練習)によって、ミニマムの合奏技術を発揮できる方。
- ・ D (初心者) : 練習中であり、合奏に参加できるまでにしばらく時間がかかる方。

(No.010074 中村幸太郎)

Cellissimo in Italian (9月クレモナ公演)への参加お誘い

過日にNPOから5月のドイツ/エッセンでのチェロアンサンブルお誘いの所に、9月のクレモナでのチェロアンサンブルのご案内をし、両方とも3月末の締め切りとしていました。エッセンはもう間に合いませんが、クレモナにはまだまだ時間がありますので再案内とさせていただきます。

催し名 : Cellissimo in Italian

日時 : 2007年9月3~7日

ただし、日本人は9月5日お昼からの参加でOK

場所 : イタリア・クレモナ市内(参加者に詳細通知)

曲目 : ベルリン、エッセンと同じ曲目

(Bach, Beates, Casals, Haendel, Lachner, Wagner, Berlin, guess de Wel)

参加費 : NPO会員@5,000円、非会員@10,000円

締切 : 2007年6月30日

(ただし、定員10名になり次第締め切ります)

その他 : ツアーではありません。個人旅行としてご参加いただけます。事務局は催しへの登録、希望者にはホテル・航空券手配をします。ハートは原則希望ハート、楽譜は6月以降にお届けできます。

ご照会、お申し込み : 事務局松本まで
tel.078-805-2001 fax.078-805-2008

エッセンでの100人のチェロに期待

踏み出した一歩がどんどん広がります。

チェロの音色が好きで、リサイタルに足を運ぶたびにリストが気持ち良さそうに弾く姿に見とれていました。それが震でした。いつしかよほど楽しい楽器に違いないと感じるようになり、そしてやらねばならぬと思ひ込むようになり、遅ればせながら社会人になって初めてチェロを手にしたので、人間工学的におかしいのではないかと、思う右手左手、正しく出る音はソラとシとだけ…などなど苦難の連続で、唯一良かったことといえば、近所の害虫が減ったことだけでした。

チェロアンサンブル協会にご縁があったのは、そのような状態が続き、音色という言葉すら忘れかけていた頃です。見学半分のもつりて公式練習会場である青南小に向うと、ちょうどクレメンツの「ヒムヌス」が始まるころでした。まるで、巨人が起き上がる瞬間を見ているようでした。チェロケースを抱えたままはし然然としてしまし、そのまま吸い込まれるように参加を決めました。ご存知のように第3回の100人のチェロコンサートは大成功を収め、やっと、チェロを始めて本当に良かったと思えるようになりました。

一歩踏み出すとさまざまなご縁が生まれるもので、昨年はベルリンでの200人コンサートに参加させていただけという幸運に恵まれました。自分にとってクラシックは趣味のひとつでしたが、コンサートに足を運んでくれた市民や団員の方々に接し、また併設の博物館を通して、クラシック音楽が数百年にわたり日々営みが必要とされていることを強く感じました。チェロを抱えて歩いているとき、「今に出たのかい、素晴らしいコンサートだったよ、ありがとう」と声をかけられたのが昨日のことのように思い出されます。「フィルハーモニック」という言葉の深さに触れることができた、素晴らしい旅でした。

エッセンという街がどのようなところなのか、あえて調べずまいりたいと思います。ベルリンは1月の訪問でしたが、昼の長い初夏ということに加えて、なんといってもマリア・クリーゲルさんが選んだ場所です。きつこの街でも音楽は愛されてきたことで、成功しないはずがありません。世界遺産もあるそうですが(実はちょっと調べました)。しっかり練習をして、コンサートに足を運んでくれる方々とともに感動を分かち合いたいと思います。

末尾になりましたが、このような機会をくださったチェロアンサンブル協会の方々、ならびにエッセンコンサート関係者の方々に深く感謝申し上げます。

東京都練馬区 (No.011198 松谷憲一)

チェロは私たちの行動力の源。

このたび、5月13日にドイツ・エッセンで行われる100人チェロコンサートに、チェロ中間の松谷憲一さんと参加させていただけることになりました。

先日楽譜が届き、今からとても楽しみにしています。チェロを始めて約5年、偶然か重なって習い始めたチェロですが、今では楽譜を持ち歩かない日はないほど、生活の一部となっています。今回は2005年1月のベルリン・フィルハーモニーでの200人チェロコンサートと同じ曲目です。この中には、とっても好きなワーグナーの曲が入っていて、もう一度この曲をチェロアンサンブルで弾くことができることは本当にうれしいことです。

チェロは、わたしたちにとっての行動力の源です。チェ

はみだしコンサート情報

《チェロとピアノと語りによる宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」》
2007年6月30日(土) 14:00開演 入場料 2,000円(全席自由)
くらやアートホール(岡山県津山市沼777 tel.0868-22-3181)
白石准(作曲・ピアノ)、大島純(チェロ)、高山正樹(語り)
※演奏会情報については、随時、CELLOSSIMO編集委員の中村までお寄せください。会報発行時に、適宜掲載させていただきます。
連絡先メールアドレス kohtaro@kcv.ne.jp

口に出会えた喜びを胸に、練習に励み、一生の思い出となるような演奏をしてきたいと思ひます。
No.011207 石井陽子

愛と感謝のチェロフェスティバル(ソウル)に出演して(佐久間豊春)

2月24日に開催されたこのコンサートは、ホン先生(Na先生の元お弟子さんで現在ソウル市内の音大教授)の企画で短期間でプロデュースされたものでした。私と松本さんに来た出演依頼もそんな前になかったように思います。

メンバーはNa先生のお弟子さんや孫弟子の皆さん総勢120名です。すべてプロのチェリストと音大生で、練習は日韓チェロコンサートの時と同じ芸術高校のホールで行なわれ、懐かしい方たちとお逢いし、とても楽しい練習でした。

本番はナチュラルな素晴らしい音響の良いアーンセンターホールです。多くの観客が集まる中で、とてもゆったりとしたtempoで「レリジオーン」でコンサートは始まりました。うなるような低音、甘くさやく中音域のピアノシモ、むせびなく高音域、Na先生の熱きタクト、120名のチェリストたち(Na先生に対して深い感謝の気持ちで演奏しているかのように、強烈なリズムの「リベルタンゴ」と「コリアンメロ—2002年」を楽しむ演奏がここができました。本当に韓国のチェリストたちは素晴らしい音と熱きものを持っています。

このコンサートを通じてNa先生の30数年の韓国音楽界、教会のコンサート指導および指導者として、素晴らしい貢献をされたことに対し、心より敬意を表します。

そして誰にでも温かく接してくださる人間味あふれる先生に、私は「アメーzing・グレイス」をおみやげに持参しました。それはアンコールで演奏され、偉大な神への感謝に大きな感動を覚え、このコンサートを通して互い人々をいける大切さと深い愛と平和の尊さを痛感しました。素晴らしい感動がこのチャンスを与えてくださったNa先生、ホン先生、ソウさん、そして韓国のチェリストの皆さんに心より感謝の気持ちでいばいばです。右の写真はNa先生ご夫妻を中心に私たち夫婦と松本さん、そしてソウさんです。



1000人チェロの行状に参加した方々の中に、チェロを強気に光っているオッサンが気になる方もいらっしゃるでしょう。それが私です。

1000人チェロに関わったのは、第1回の開催準備の頃からです。松本理事長と個人的な知り合いで、お手伝いするようにして、NPOの設立、第2回1000人チェロ、日韓コンサート、コングレス他、スタッフとして演奏会場外での分野を受け持ってきました。そのため、1000人チェロの3回のコンサートの本番は、ビデオで見えています。

音楽は、小学校から悩みの種で、ホラ以外は吹けない学芸会からスタネット組人生を歩んできたので、楽器を演奏ができる人間性への存在です。よってチェロのこともほとんど知りませんが、第1回1000人チェロコンサートの練習時の休み時間、W氏らの演奏を聴き、チェロって、こんな綺麗な音がするのだと感動しました。

1000人チェロは、チェロを愛し演奏する人たちが、一同に集まって、時間を待とうという目的もあるのではと感じています。そのため、演奏や練習以外に参加者が交流できる時間を設け、直に世界のトッププレーヤーと写真を撮ったり、サインをもらったり、言葉を交わすことができる時間を必ず持つようになっています。

10年ほどのチェロとの関わりで、これまで知らない世界の人との輪を広げることもできました。チェロを奏する人々にとっては、もっと深い繋がりが出てきたのではないかと、思っています。これまで、大分、天皇、岡山、横浜、ソウル他で行事を行ってきました。これらはその地域OCES会員が中心となって開催されました。今後も、他の地域で行事が行われ、その土地を訪ねることができたらいいなと思っています。(No.010168)

ICESと私① 山本康雄

演奏曲目：エルクール・威風堂々「リターマン・レリジオーン」バハ「アライオンソフク」作曲「ヒソラ」リベルタンゴ「ソウル」ソウさん、白黒、クレメンツ「ヒムヌス」ス・タビロラ・イムヌス「シムトリス」ヒチカトホルカ、ホルスト「ジュビター」イギリス民謡「アメーzingグレイス」VAGHOC「コロ民謡」